＜全体分析＞

試験時間　９０　分

解答形式
論述式
分量・難易（前年比較）
分量（減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加）
難易（易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化）
出題の特徴や昨年との変更点
大問２題、小問は計６問で、論述字数は１問当たり 100～200 字。論述問題が昨年より１問減少し、語句記述問題がなくなるなど、一昨年までと同じ形式になった。昨年あった語句指定問題もなかった。総字数は 900 字程度で、昨年よりも 50 字減少した。グラフ・地図などの資料を用いた問題は定着している。
その他トピックス
特になし。

＜大問分析＞

番号	出題形式	出題分野･テーマ	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）	難易度
(Ⅰ)	論述式	自然環境と農業	問１　冷帯気候の分布の理由（150 字程度） (1)は冷帯の定義が北半球だけに該当し、南半球には該当しないこと、(2)は冬季に厳寒となるシベリアでは高気圧が発達して降水量が少ないことを述べる。	標準
			問２　アジア・アフリカの３地域に共通する気候と農業の特徴（100 字程度） ステップ気候であることと、農業は自給的で生産性が低いことなどを、穀物名をあげて説明する。	やや易
			問３　アメリカ合衆国中央部における灌漑農業の特徴と問題点（100 字程度） 灌漑農業の特徴はセンターピボット方式、問題点は塩害、地下水の枯渇であることを述べる。	やや易
(Ⅱ)	論述式	漁業	問１　日本近海の好漁場の位置とその要因（200 字程度） 東日本沖の太平洋と日本海について、自然環境は潮目、バンクがあり魚種が豊富なこと、経済的・文化的側面は魚食文化や技術の発達、水産物需要が多いことなどを述べる。	標準
			問２　世界の漁業・養殖業生産量の推移（200 字程度） 1990 年代以降の漁業生産量は水産資源の減少､漁獲規制で停滞、養殖業生産量は、主としてアジアでの需要増加、海面養殖業はそれに加えて輸出向けの生産による増加などを背景とすることを述べる。	標準
			問３　東日本大震災被災地の漁業の復興の要点（150 字程度） 漁港などの設備面の復旧だけなく、労働力不足への対応や販路の復旧、風評被害への対策などが必要なことを述べる。	やや難

※難易度は５段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

© 河合塾　2024 年

＜学習対策＞

教科書の内容を十分に把握して地理に関する知識を深めるとともに，論理的で簡潔な文章を書く訓練をしておこう。基本的な論述練習としては，地理用語や教科書の小項目を 100～200 字程度で説明したり，要約したりすることから始めるとよい。論述問題では出題の意図を把握することが重要になるが，そのためには，阪大の過去問だけでなく，他大学も含めて数多くの論述問題に触れ，さまざまなタイプの問題に取り組んでおく必要がある。書く内容についての知識とともに，文章を組み立てて答案に仕上げる練習も必要である。事実関係を説明させる問題だけでなく，統計・地図の読み取りから理由や背景を論述させる問題も出題されているので，統計やグラフの読み取りを含む論述問題は重点的にやっておこう。また，時には（Ⅱ）の問３のように，教科書に記載の少ない事項や教科書からやや離れた事項も出題されているので，新聞などを読んで，世界各国についての時事問題や現代日本の地域問題・社会問題などにも関心を持っておこう。

© 河合塾　2024 年